

小学校版 がん教育プログラム

補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、
がんについての正しい理解と、
がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する
共感的な理解を深めることを通して、
自他の健康と命の大切さについて学び、
共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を
図ることを目的としています。

本教材を活用するにあたっての留意事項

命についての授業になります。児童の家庭状況や心理面の配慮が必要です。
本誌P.10の留意事項を、必ずご確認ください。

日本人の死因の第1位はがんです。3割近くの人ががんで亡くなっています。そして、日本人の2人に1人は、一生のうちに何らかのがんになると推計されています。がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、治らない病気ではなくなってきました。日本の未来を担う子どもたちに、がんの正しい知識や、生きること、命の大切さを理解してほしいと願っています。

プログラムのねらいと特長

がんをテーマとして教育で扱う際に最も大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解のない問いに対して考えることを通して、「健康と命」について考えることです。

本プログラムでは、がんについて基本的なことを理解するとともに、児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的とし、3つの視点からのアプローチ手法を組み込みました。

がん教育

がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る。

がんの正しい知識を理解する

生きること、命の大切さを理解する

がんについて基本的なことを理解するとともに、「健康と命の大切さ」について、児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的に3つの視点からアプローチします。

子どもの実態をよく理解している
教員による
進行とワーク

がんについて
正しい知識を提供する
医療関係者監修映像

がんと向き合い、
今を生き生きと生きる
がん経験者の
インタビュー映像

提供教材

補助教材



本誌
※ねらい・授業進行方法
などを紹介しています。

映像教材

映像教材①
「がん博士の『がんについて
の基礎知識』」
がんについての知識を伝える。



映像教材②
「がんと生きる」
がん患者の思いや考えを伝える。
※2名のエピソードのうち、どちらか
選択してご使用ください。



ワークシート



ポスター枠（縦書き、横書き）

小学校版プログラムの概要

対象／関連教科 小学校高学年～／特別活動・道徳

時間 基本授業（45分）
発展授業（45分～）

ねらい

- ・がんについての正しい知識「予防できること」「早期発見によって治癒する可能性が高いこと」を理解する。
- ・がん患者による「がんを経験したことによる『生きる』ことへの思い」や、「がんと向き合いながら生き生きとした日常生活を送る」ことを中心とした「健康と命の大切さ」について考える。

※学校医・養護教諭や、実際のがん経験者の協力によって、インタビュー・講話が可能な場合は、映像教材を使わずに、直接話を聞く場面を位置づけることで、学習がより深まります。

プログラムの構成

基本授業 がんを知る レクチャー編（45分）

導入
（7分）

教員

- ・がんについてどのような病気だと思っているかを問い、がんについてどのようなイメージをもっているのか確認する。
- ・授業のねらいを伝える。

がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができようことを考えよう。

展開①
（15分）

教員

- ・がんについて正しい知識を得ることの重要性を喚起する。
- ・がんについての知識を伝える。



映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』」

がんについての知識、特に「健康的な生活習慣による『予防』」と、「定期検診による『早期発見』」の重要性を伝える。

医療関係者

※学校医・養護教諭など、医療関係者による講座を位置づけることで、より深い学びが可能です。

展開②
（20分）

教員

- ・がん患者の経験を伝える。



映像教材②「がんと生きる」

がんをどのように受け止め、乗り越えたのか。生き生きとした生活を送る現在の姿には、どのような考えがあるのかを伝える。

がん経験者

※実際のがん患者を招いてのインタビューや講話を位置づけることで、より深い学びが可能です。

まとめ
（3分）

教員

- ・授業をふりかえり、これからの生活につなげさせる。

発展授業 大切な人のために自分ができようことを考える ワーク編

周りの人にどう伝えるかなどの考える活動を通して、学びを主体的・対話的にふりかえり、より深い学びにつなげていくことをねらいにしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

展開

教員

- ・基本授業の学びをふりかえらせる。
- ・学んだことをさらに深めるために、以下のワークを行わせる。

大切な人の命のために、がんについて伝える資料をまとめよう。

- ・つくった資料を、グループや全体で発表させ、考えを共有させる。
- ・基本授業から連続した児童の考えの変容を評価し、「健康と命の大切さ」を伝える。

がん教育の実施にあたり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家（外部講師）との連携が効果的です。

「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」を参照のうえ、
学校の実情に合ったがん教育を推進してください。

外部講師を用いたがん教育については、本誌に一部抜粋して紹介していますが、詳しくは文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」をご参照ください。

外部講師を用いたがん教育ガイドライン

検索 

基本方針

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、教員と連携を密に図りながら実施する。

●実施の手順（例）

	学校内	外部講師との調整
①企画	<ul style="list-style-type: none"> 保健主事など中心となる教員を決め、がん教育を企画する。（テーマ、時期、講師、実施形態など） 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関に講師の派遣を依頼する。（事前打診、依頼状送付、打ち合せ日程調整）
②打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通理解を図り、内容について話し合う。 教科書などの資料を準備し、講師予定者との打ち合わせに備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師予定者と指導内容、指導方法について打ち合わせる。（日程、役割分担、準備物、留意事項の確認）
③準備	<ul style="list-style-type: none"> 児童への配布資料や視聴覚機材を準備する。 必要に応じて事前学習・事前指導を行う。また、保護者、児童への事前調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や視聴覚機材の最終確認をする。 講師と学校の役割分担を確認をする。
④外部講師を活用したがん教育	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの説明、講師の紹介を行う。 がん教育を実施する。 	[がん教育を実施する]
⑤実施後の指導	<ul style="list-style-type: none"> 関連教科と結びつけた指導を行う。 児童から質問、感想を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師に感想を尋ねる。 児童の感想をまとめ、指導上の課題や実施後の指導について話し合う。
⑥評価まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 成果と課題について担当者で話し合い、次年度に生かす。 結果を教職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師および講師の所属先に礼状を出す。

●実施のポイント

- 学校が主体となって企画・運営を行う。
- 授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 保護者への広報、啓発活動を同時に行うと効果的。関係者、関係機関と継続的に連携する。
- 年度当初の職員会議等で外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

実施上の留意点

●外部講師の選定

- 健康と命の大切さをねらいとした場合…
医療関係者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的であると考えられる。
- がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合…
学校医、がん専門医（がん診療連携拠点病院の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的と考えられる。

●運営上の留意点

- 本教材を活用した授業にあたっての留意事項（P.10参照）を講師と事前に共有する。
- 授業計画の作成にあたっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。
- 教員と外部講師は、事前・事後に打ち合わせを行い、授業のねらいを共通理解することが重要である。
- 各教員が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する授業や学校行事等を関連させることで、より教育効果を高めることができる。

依頼を受けた外部講師の方へ

●内容と指導のポイント

講師が伝えたい内容で一方的に授業を構成したり、児童が理解できない難解な言葉（専門用語）を用いたりせず、対象となる児童の理解力など、発育・発達段階を十分考慮し、わかりやすい言葉づかいや内容を心がけましょう。

- 分かりやすい例を示すと学習効果が高まります。
- 怖さを強調するのではなく「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることができるようにすることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることを念頭に置きましょう。

時間	学習活動	指導上の留意点など
導入 7分	<p>1. がんに対してどのようなイメージをもっているか確認し、ねらいを捉える。</p> <p>※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。</p> <p>1) がんと自分との関わりを捉えさせる。</p> <p>① 児童にがんについてどのような病気だと思っているかを問いかける。</p> <div data-bbox="211 424 1058 503" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>？ 問いかけ 「がん」とは、どのような病気だろう？</p> </div> <p>② 知っていることをワークシートに記入させ、グループで考えを共有する。 ワークシート 1</p> <p>③ 何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>④ がんは、命にかかわる病気であるが、絶対に治らない病気ではないこと、正しい知識を学び、自分や大切な人を守ることを考えていくことの重要性を伝える。</p> <p>2) 授業のねらいを伝える。</p> <p>① ねらいを伝える。</p> <div data-bbox="211 762 1058 841" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねらい がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができることを考えよう。</p> </div>	<p>※がんを題材にした授業では、必ず以下のことを念頭におくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にがん罹患している人もつ児童がいるかもしれないこと ・がん患者の人権に配慮し、正しい知識を伝えることを通して、がんががん患者への偏見や差別を無くすこと
展開 ① 15分	<p>2. がんについて理解する。</p> <p>1) がんについて、正しい知識を得ることの重要性を感じさせる。</p> <p>① がんについての正しい知識への関心を高めるクイズを出題する。</p> <p>【クイズ1】</p> <div data-bbox="211 1031 1058 1110" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>？ 問いかけ 「〇〇がん」と、たくさんの種類があるけれど、あなたはいくつ知っているだろう？</p> </div> <p>☆解説・・・児童の答えを板書し、その部位を児童自身に触らせるなどして、体のいろいろな部位ががんになることを確認し、自分に引きつけて捉えさせる。また、「血が出るような切り傷や骨折と一緒に？違う？」などとさらに問いかけ、がんの原因について興味・関心を高める。</p> <p>【クイズ2】</p> <div data-bbox="211 1276 1058 1355" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>？ 問いかけ がんの対策、あなたは知っていますか？</p> </div> <p>☆解説・・・児童の考えを引き出した後、「手術をすれば、がんを取り除くことができるけれど、ならないのが一番だね。どうすればよいか知っている？」などと問いかけたり、「あなたは今、がんにならない対策を何かしている？」と問いかけたりして、正しい知識を得ることの必要性を感じさせる。</p> <p>2) がんについての知識を伝える。 ワークシート 2</p> <p>① 正しい知識を得るために映像教材を視聴することを伝える。 また、映像教材を視聴しながら、分かったこと、大切だと感じたことをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>② 映像教材を視聴する。 医療関係者との連携でより深い学びが可能です</p> <div data-bbox="219 1653 882 1690" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 2px;"> <p> 映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』(6分35秒)</p> </div> <p>③ ワークシートに記入した内容を、グループで共有させる。</p> <p>④ 何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤ 映像教材①の内容（質問④）を参考に、がんについて考えるときに大切なことをおさえる。</p> <div data-bbox="211 1897 1058 1976" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>がんは、生活習慣をととのえる『予防』と、検診などによる『早期発見』が重要である。</p> </div>	<p>展開①の映像教材の部分は、学校医あるいは養護教諭が説明すると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●がんの種類 <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、乳がん、肝臓がん など。 (中・高等学校向け「がん教育推進のための補助教材」に資料があります。本誌P.11を参照してください) ●映像教材①の内容は、P.8を参照してください。 <div data-bbox="1115 1690 1362 1914" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>※がんには、まだ原因がよくわかっていないものが多い。がん患者の全てが、生活習慣が悪かったためがんになったという誤った印象を与えないよう注意する。</p> </div>

時間	学習活動	指導上の留意点など
展開② 20分	<p>3.がん患者の思いを理解する。</p> <p>1)がん患者の経験を伝える。 ワークシート 3</p> <p>①がん患者の経験から学ぶために映像教材を視聴することを伝える。 また、映像教材を視聴しながら、心に残ったことをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>②映像教材を視聴する。 がん患者との連携でより深い学びが可能です</p> <p>▶ 映像教材②「がんと生きる」(約5分)</p> <p>※2名のエピソードのうち、どちらかを選択して視聴させる。</p> <p>③ワークシートに記入した内容を、グループで共有させる。</p> <p>④何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤がんを乗り越える強さ、また、生きることについて大切なことをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例) がんを受け止め、それを乗り越えていく強さ、生き生きとしている様子が感じられたね。また、自分のためだけでなく、支えてくれた家族、ほかのがん患者のために、力を尽くしていってほしいという今の生き方からは、「命を大切する」ということを学ぶことができるね。最後のメッセージ、「自分の人生、自分の体を大切に」という言葉、しっかりと受けとめていこう。</p> </div> <p>※展開②のあとに「発展授業」の内容を組み合わせると学びが活かせて効果的です。</p>	<p>展開②の映像教材の部分は、実際のがん患者を招いての講話やインタビューにすると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <p>●映像教材②の内容は、P.8を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※「どうしてがんになったのか」というような原因探しや、「もう死んでしまうの?」「怖い」という感情を生起させるのではなく、「命を大切に」「生き生きと前向きに生きる」姿を伝えるようにする。</p> </div>
まとめ 3分	<p>4.学びをふりかえり、これからの生活につなげる。</p> <p>1)授業を通じた児童の考えの変容を評価し、健康と命の大切さを伝える。</p> <p>①教員からのメッセージを語る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例) 命にかかわる病気、がんについて学び、自分や大切な人が生きるということについて、考えたね。がんを負けない体、健康な体をつくるのが大事だね。そして、命は、何よりも大切なこと。自分と、そして全ての命を、大切にしてほしい。</p> </div> <p>2)これからの生活につなげる。(宿題) ワークシート 5</p> <p>①これからの生活で大切にしていきたいと考えること、お家の人に伝えることを宿題で、ワークシートに記入してくるよう伝える。</p>	<p>ワークシートには、宿題として、プログラムの学びをお家の人に伝えるワークを用意しました。児童が自分と大切な人の命について考えを深めたことが、多くの立場から価値付けられることをねらっています。児童の家庭環境に配慮しながら、ご活用ください。</p>

【発展授業】

大切な人のために自分ができていることを考えよう！【1時限(45分)～】

周りの人に伝える内容を考える活動を通して、学びを主体的・対話的にふりかえり、より深い学びにつなげていくことをねらいにしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

1)基本授業での学びをふりかえさせる。

- ①学習前のがんに対するイメージと、今の自分の考えとを比較させる。
- ②学んだ知識、予防や早期発見と治療ができること、もし罹患しても生き生きと生きていくことが大切であることを確認し、正しい知識・情報の重要性と必要性を伝える。

2)理解した知識をさらに深める。

- ①ワークの概要を説明する。

ワークシート 4・別紙

Q ワーク 大切な人の命のために、がんについて伝える資料をつくろう。

これまで学んだ情報を使って、がんについて伝える資料を作成する。

※資料は、ポスターや標語、作文、レポートなど学習の目的に応じて決定ください。

(ポスターを作成される場合、ポスター枠をご利用ください)

- ②作成した資料を、グループで共有させ、何人かの児童に発表させ、全体で共有させる。
- ③作った資料を持ち帰り、学習したことをお家の人や、大切な人に話をするように伝える。

3)これからの生活につなげる。(※基本授業「まとめ」参照)

- ①これからの生活で大切にしていきたいと考えることを、ワークシートに記入させる。

●学習前のイメージとの比較

・がんについて学習する前は、「怖い」「治らない」というようなイメージが多かったことが予測される。しかし、正しい知識を得れば、必ずしも悲観的になる必要はないこと、自分にできることがあることを確認し、学習につなげる。

※児童にとって大切な人が、喫煙や過度の飲酒をしている場合でも、「悪い生活習慣をしている人を攻撃」するのではなく、「良い生活習慣を勧める」ようアドバイスをする。

参考資料【映像教材】



映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』」(6分35秒)

		<p>質問① どうしてがんになるの？</p>
		<p>質問② がんにならないためには、どうすればいいの？</p>
		<p>質問③ がんは、なおすことができるの？</p>
		<p>質問④ どうすればがんを早く見つけられるの？</p>



映像教材②「がんと生きる」

長谷川一男さんのエピソード(5分24秒)

	<p>がんと分かったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子どもにどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。</p> <p>自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだったら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子どもたち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合って治療法を決め、治療を進めていきました。</p> <p>私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。</p> <p>みんなて話し合う場をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで励まし合う場をつくっているのです。</p> <p>みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。</p>
--	---

倉本久恵さんのエピソード(5分03秒)

	<p>がんと分かったのは検診でした。とてもショックで、残してしまう家族への心配が1番大きかったです。でも、毎日のようにお見舞いに来てくれた家族の支えと励ましで、治療をがんばることができました。</p> <p>今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。</p> <p>今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。</p> <p>健康であれば自分の夢も叶います。バランスのいい食事をとって、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしてほしいと思います。</p>
--	--

● 児童の心理面について

家族や身近な人ががんの治療中であつたり、がんによって亡くなつたりしている児童への心理面の配慮が必要です。

事前調査を行うなどして、実態を把握し、授業内容について事前に話をしておくなど、必要に応じた対応をしてください。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがん罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気づかせるという学習の方向性が重要です。

● 小児がんについて

本プログラムで扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある児童がいる場合は、事前に当該児童の保護者にも授業実施にあたって注意すべき点を確認しておくなどの配慮が必要です。

● 生活習慣病とがんとの関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになる可能性を低くすることができますが、絶対にがんにならないわけではありません。

※がんには、まだ原因が判明していないものもある。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったからがんになったという誤った印象を与えないよう注意する。

● 喫煙や飲酒について

未成年の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、がんやその他の病気の予防のためにも、成人になっても喫煙や過度の飲酒を控える気持ちを育てる必要があります。

● がん検診について

がん検診によって早期にがんを発見することができ、治る可能性が高くなります。

体に不調がなくても定期的に検診を受け、体に不調がある場合は、無理や我慢をせず、病院で診てもらうことが大切です。

● 指導する予防法について

本プログラムで紹介するがんの予防については、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。しかし、現在もがんに関する研究は進められており、今後がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

●文部科学省「**がん教育推進のための教材**」

学校においてがん教育を実施するに当たり、効果的な指導が行えるよう作成された補助教材です。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm

●株式会社キャリアリンク「**がん教育プログラム（中学校・高等学校版 補助教材）**」

（文部科学省委託事業）

上述した「がん教育推進のための教材」に対応したスライド教材です。

全9モジュール分のスライド教材が用意されています。

スライド					
1	がんという病気		6	がんの治療で大切なこと	
2	日本のがんの現状		7	がん治療の支援	
3	がんの発生と進行		8	がん患者のおもい	
4	がんの予防		9	がん患者とともに生きる社会	
5	検診の意味				

●文部科学省「**外部講師を用いたがん教育ガイドライン**」

学校において、医師等の外部講師ががん教育を実施するに当たり、最低限留意すべき事項等を示すガイドラインです。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm

●国立がん研究センターがん対策情報センター「**がん情報サービス**」

<http://ganjoho.jp/>

本プログラム作成にあたっては、作成委員会を設置し、アドバイスおよび監修をいただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順）

植田 誠治氏（聖心女子大学 文学部教育学科教授）

塚崎 好起氏（岡山県教育庁 保健体育課 健康・安全教育班 指導主事）

中川 恵一氏（東京大学医学部附属病院 放射線科准教授、緩和ケア診療部長（兼任））

林 和彦氏（東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会（自助努力の患者会）代表、ジャーナリスト）

平成29年3月
株式会社キャリアリンク
(文部科学省委託事業)